

# まちかどフォトニュース

おもしろいこと、珍しいもの、どんなことでもいいので耳よりな情報をお知らせください。  
三好市 秘書広報課 ☎ 72-7646

## 白熱 スポーツ少年団対抗駅伝

## 市民大学受講生に 修了証書

## 辻小学校で校舎の起工式



駅伝を通じてチームワークや交流を深めてもらおうと、三好市スポーツ少年団駅伝競走大会が12月10日、吉野川運動公園で初めて開催され、選手たちは5区間6.4kmをたすきでつないで走りました。また、友好タイムトライアルも行われ、参加した小学1年生から6年生のスポーツ少年団員約120人は、懸命にゴールを目指し一生懸命に走っていました。この大会が回数を重ね、走ることの大切さやチームワークの向上、駅伝の魅力を発信する三好市恒例の大会になってほしいです。



歴史をテーマに全7回開催された三好市民大学講座が12月7日に中央公民館で最終日を迎えました。全7人の講師陣の最後を飾ったのは、箸蔵寺の佐藤盛仁住職。地元のことをよく知ってもらい郷土愛を育てるきっかけになればと箸蔵寺の歴史と由来についてお話いただきました。講義後には修了式が開かれ132人に修了証書が渡され、延べ1005人が受講した本年度市民大学講座は終了しました。来年度は6月5日に開講式を予定しております。ぜひ受講してみたいはいかがでしょうか。



12月1日、辻小学校敷地内で辻小学校校舎改築工事の起工式が挙行され、依市長、大黒文教厚生委員長をはじめ関係者21人が集まり、工事の安全を祈願しました。  
新しく建設される校舎は木造と一部鉄筋コンクリート造の2階建て校舎で、延床面積は2211平方メートルとなっています。工事は2期に分けて行われ、既に校舎西側は解体工事が完了しています。新校舎建築後は、仮設校舎の撤去などを行い、完成は平成25年3月の予定です。

## 箸蔵小学校でサッカー教室

## 楽しく健康づくり

## みんなで地域おこしを



体を動かすことの楽しさや仲間と協力して運動することを通じて体力の向上や絆づくりに繋げていこうと、12月21日に箸蔵小学校で徳島ヴォルティスのコーチを招き、サッカー教室が開催されました。この日は3年生以下と4年生以上の2回の授業に分けて、3人のコーチが鬼ごっこやボール集め競走など楽しいゲームやサッカーを行いました。子どもたちだけでなく先生も一緒に、楽しい時間を過ごし、コーチを含め参加者みんなの満足そうな表情が印象的でした。



食事や運動をテーマとした健康増進フォーラムが、12月11日に三好市保健センターで開催され、NPO法人ALIVE LABの上田啓人さんを講師に「ラボ流!! 楽しみながら続ける“健康づくり”」と題して、講演と運動実技が行われました。  
講演では、継続した健康づくりのために必要な食生活や運動方法の提案があり、参加者はうなづいたり、メモに書き留めたりしながら熱心に耳を傾けていました。その後、家庭でできる運動の指導も行われました。



12月10日、地域がつくる元気をテーマに、中央公民館でNPO法人協働プランニングNIMS主催によるシンポジウムが開催されました。基調講演では、地域ににぎわいをと題し、地域おこし協力隊の吉田絵美さんや下川徹さんが活動報告を行いました。また、コーディネーターに徳島大学非常勤講師の山野明美さんを迎えて、市内有識者4名とのパネルディスカッションがあり、これからの地域づくりに向けて、地域のつながりや絆の大切さについての提言や意見交換が行われました。



## 親子リトミックで遊ぼう

三好市はぐみクラブによる子育て支援イベント「はぐみクリスマス会」が12月20日に池田総合体育館で開催され、保育所や幼稚園に通っていない子どもたちと保護者ら約200人が参加しました。この日は、音楽を体で体験し想像力や表現力を養うリトミックを取り入れて、親子で走ったり踊ったり、ボールやタンバリンなどを使って歌にあわせて体を動かして楽しく遊びました。最後にサンタさんが会場に現れ、一人一人にプレゼントが手渡されると、子どもたちはおはしゃぎで喜びました。

## 待ち遠しいしいたけの収穫と香り

今年で休校を迎える佐野小学校で、恒例の「第18回佐野しいたけまつり」が12月11日に開催され、市内外からたくさんの方が訪れました。会場では、焼きしいたけのサービスコーナーやシイタケの即売、つきたてのお餅、シイタケの粉末をうどんに練りこんだ「しいたけうどん」などに長蛇の列ができていました。また、ホダ木に菌を埋め込む植菌体験があり、会場は終始賑わっていました。佐野地区特産の美味しいしいたけの収穫の季節が今から楽しみです。



## 炭焼きの技を後継者へ

炭窯作りや炭焼きの技術を後継者に伝えようと、山城町河内の農林業体験施設「上河内の郷」で、11月下旬から12月にかけて炭窯作りが行われました。炭窯の形は「大石式」と呼ばれるもので、河内地域の後継者5人が集まり、同地域の方から指導を受けながら炭窯の完成を目指しました。炭焼き作業の指導も受ける予定で、今後は手作りの炭窯での炭焼き体験を通して、都会の人と地域の人との交流や田舎暮らしの良さを発信する場として活かします。